

状況判断力を育てる

副校長 細井 宏一

もう十年以上前のことです。4年生の社会科見学に引率して浅草に行きました。子供たちはグループになって「雷門」や「浅草寺」の見学を行いました。

「浅草寺」の前に手水舎があります。小屋の中に水が出ていて、柄杓（ひしゃく）で水をとり、手を洗ったり口をゆすいだりして参拝者が身を清める場所です。私はその周辺にいて児童の様子を見ていました。

活動が始まってしばらくすると、本校のある女の子が「お清めをしていますが」と私に尋ねてきました。悪いことではないですしそれも一つの勉強だと考え「いいですよ」と話しました。その女の子は嬉しそうに、丁寧に、作法の書いてある図を見ながら柄杓を使って手を洗っています。他の子もやりはじめました。いい体験だと微笑ましく見ていました。そこへ男子グループがやってきました。そして女の子に尋ねます。

「これやっているの？」

その男の子の話し方は「そんな勝手なことをしてはいけないんだよ。」と言わんばかりです。女の子は、「いいんだよ。先生がいいって言ってたもん。」

と話します。「私は悪くない。先生にちゃんと許可を得ているのよ」という感じでした。それを聞いた男の子たちは、本当はやってみたかったのでしょうか、すぐに柄杓に手を伸ばし同じようにやり始めました。しばらく様子を見てみると、次のグループが来て同様のやりとりをしています。そして柄杓を持ちます。私は少し嫌な予感がしました。次々にグループが来て人数が増えていき、ついには作法はどこかへいってしまって、柄杓で人に水をかけたり、ぬれた手をふかずにぶらぶらしたりと、周りの方に迷惑をかけるような行動が見られるようになってしまったのです。観光客の方も大勢いらしたので大声で指導することはしにくい状況でした。私は、

「迷惑をかけないように考えて行動しなさい。お清めするのはいいけれど、遊ばない。作法を見て！」

と一人一人に声をかけますが、次から次へと子供たちが来て指導が行き届きません。「迷惑をかけないように…」では、エスカレートする子供たちの行動を止めることができない状況でした。結局、担当教員としては「もう『禁止』です」とせざるを得ませんでした。

小学生ですから「友達がやっていることを自分もやってみたい」というのはわかりますし、伝言ゲームのように伝わっていくと、だんだん最初の丁寧な感じがなくなっていくこともある程度はしかたないと思います。しかし「柄杓で遊んでいい」とはならないはずで、この辺り、どこまでならいいのか、自分で考えながら行動するような判断も年齢相応にできるようになってほしいものです。特に、大人や教員がいないときにどのような行動をとるのか、そこが勝負です。登下校中のマナーも同じでしょう。先生に注意されなくても、大人が見ていなくても、周りへ迷惑なことをしていないか善悪を考えて自分で自分の行動を律することができる、児童にはそうあってほしいものです。「転ばぬ先の杖」式に、何でも禁止にすれば行動はある程度防げますが、それでは子供の心が育たない面もあるかもしれません。周りの様子も考えて、自分で判断してふさわしい行動ができる判断力をどう育成していったらいいのか、考えさせられる出来事でした。